



2026年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社HANATOUR JAPAN
代表者名 代 表 取 締 役 金 尚 昱
(コード番号：6561 東証グロース)
問合せ先 執行役員経営管理部長 田中 一彰
(TEL. 03-6629-4755)

特別損失の計上及び通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2025年12月期第4四半期連結会計期間において、特別損失を計上するとともに、2025年12月16日に公表いたしました2025年12月期通期連結業績予想と実績に差異が生じましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

予定通りTマークシティホテル札幌を2026年3月15日をもって営業を終了し、翌月の2026年4月、建物の解体に着手することに伴い、特別損失に、解体費用等の見積額312百万円を店舗閉鎖損失引当金繰入額として計上するとともに、当該建物に係る固定資産を減損処理し77百万円を減損損失として計上いたしました。

2. 2025年12月期通期連結業績予想数値と実績との差異（2025年1月1日～2025年12月31日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	7,200	1,840	1,750	1,010～1,110	円 銭 80.44 ～88.40
今回実績（B）	7,180	1,998	1,939	1,385	110.32
増減額（B－A）	△19	158	189	275	
増減率（％）	△0.3	8.6	10.8	24.8 ～37.2	
（参考）前期実績 （2024年12月期）	6,662	1,732	1,643	1,627	129.60

3. 通期連結業績予想と実績の差異発生理由

当連結会計年度の業績は、第3四半期まで為替レートの急激な変動や地震の風評などの影響により伸び悩んでおりましたが、10月以降、韓国ofチュソクなどの影響から好転したものの、通年の売上高は前回予想に届かず7,180百万円となりました。

旅行事業は減収減益となったものの、バス、ホテル等施設運営事業が補完するかたちで着地し、各事業において給料のベースアップを実施した中でも、コストコントロールを徹底した結果、営業利益は前年に対し15.3%増、前回予想から8.6%増益となり過去最高益を更新しました。

営業外損益は為替レートが円安韓国ウォン高に推移し、為替差損失が想定よりも少額で着地したため、経常利益は前回予想を10.8%上回り、営業利益同様に過去最高を更新しております。

ホテル等施設運営事業のTマークシティホテル札幌ですが、予定通り2026年3月15日に営業を終了しその翌月の4月に解体いたします。解体に伴い当連結会計年度にて上記1.特別損失の計上に記載のとおり店舗閉鎖損失引当金繰入額312百万円、減損損失77百万円を計上し、前回予想の解体費用等の引当計上420百万～480百万及び固定資産の減損損失30百万円～70百万円を下回ったことにより、親会社株主に帰属する当期純利益が1,385百万円となり前回予想を上回る結果となりました。

なお、解体後はホテル再開発を計画しており、現在検討を進めております。詳細が決定次第、開示させていただきます。

以上